

令和4年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和4年度第1回）

日時：令和4年（2022年）8月18日（木）14時00分～15時00分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

委員会 委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
委員（委員長職務代理者）		
	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
委員	安藤 浩史	観音崎京急ホテル取締役社長
委員	川口 香世	市民委員
委員	鈴木 優子	市民委員

館長	文化スポーツ観光部長	倉林 孝英
事務局	美術館運営課長	岡本 剛彦
	美術館運営課管理運営係長	下田 哲央
	美術館運営課総務係主査	小川淳太郎
	美術館運営課（学芸員主査）	富田 康子
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員）	日野原清水
	美術館運営課（総務係）	安陪萌菜美

2. 新任委員紹介

3. 議事

令和3年度の運営評価について

4. その他

今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田〕：定刻になりましたので、「令和4年度 第1回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくお願いたします。まず、最初に根岸小学校校長の三浦(みうら) 匡(ただし)委員におかれましては、本日、所用のため、ご欠席のご連絡をいただいております。

また、本日傍聴者はいませんのでご報告いたします。

【1 部長あいさつ】

〔事務局・下田〕：はじめに事務局を代表しまして、館長・文化スポーツ観光部長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：皆さま、初めまして。横須賀美術館長・文化スポーツ観光部長の倉林でございます。本日は、ご多忙の中、令和4年度 横須賀美術館 第1回運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、本日の委員会開催にあたり、令和3年度事業に対する二次評価を行っていただき、重ねてお礼申し上げます。

本日の委員会では、皆様からいただきました二次評価についてご議論いただき、令和3年度の評価を確定いたします。皆様のご意見一つひとつを今後の運営に生かし、さらに一層の努力や工夫を凝らして、多様な学びを生み出す美術館を目指し、引き続き努力してまいります。

さて、昨年度の会議でも報告させていただいたと聞いておりますが、横須賀美術館は今年4月1日から、所管が教育委員会から市長部局である文化スポーツ観光部に移管されました。これに伴い、4月以降、美術館を使用した他の課によるイベントの開催や様々なプロモーション協力など、これまで以上に庁内での連携が行われています。

その結果、新型コロナウイルス感染症の影響が続いている中ではございますが、現在開催中の企画展「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」は大変多くの皆様にお越しいただいております。具体的には、7月6日の開幕から昨日8月17日までの間に、合計26,500人、1日平均650人以上の方にご来館いただいております、これは他の企画展と比較しても非常に多い観覧者数であります。

さらに美術館を発展させ、多くの皆様にお越しいただくため、本日の会議におきましても、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。本日もよろしくお願いたします。

【2 新任委員紹介】

〔事務局・下田〕：3月まで委員を務めていただきました濱田委員が社内で異動となり、新しく安藤様が観音崎京急ホテル社長にご就任されました。それに伴い、安藤様には4月1

日付で本委員会委員にもご就任いただくことになりましたので、報告させていただきます。ここで安藤様からご挨拶をいただきます。

〔安藤委員〕：4月1日から人事異動により観音崎京急ホテルに来ております。平成25年度から平成27年にも観音崎京急ホテルにおりまして、この会議に出席させていただくのは2回目となります。懐かしくもありますが、状況や環境も変化しているので、また1から勉強させていただきながら務めさせていただければと思います。

〔事務局・下田〕：ありがとうございました。ここで、事務局の職員も4月1日付で人事異動があり、新たに着任した職員がおりますので、紹介させていただきます。管理運営係で、本委員会を担当しておりました久保田が人事異動により、教育委員会生涯学習課に異動いたしました。後任として、自然環境共生課から安陪が着任いたしましたので、報告させていただきます。

【3 議事 令和3年度の運営評価について】

〔事務局・下田〕：それでは、ここで本日の資料の確認をさせていただきます。まず、机上でご用意させていただきましたものは、次第、資料1「委員名簿」、資料2「委員による二次評価まとめ」、資料3「運営評価委員会スケジュール」、「来館者アンケート」の4つです。

来館者アンケートについては、川口委員の2次評価においてご意見をいただきましたので、配布しています。また、委員の皆様には事前にお送りさせていただいた資料は、「令和3年度 評価報告書（一次評価）」と「参考資料集」となっています。このうち、「令和3年度 評価報告書（一次評価）」につきまして、17頁から20頁まで、改行にミスがありましたので、修正のうえ、改めて机の上に置かせていただいております。なお、記載内容は変更をしておりません。

併せて、参考資料として、現在開催中の企画展「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」にて配布している資料及び次期企画展「猪熊弦一郎展」の招待券及びチラシを置かせていただいておりますので、ご確認ください。以上が本日の資料でございます。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

〔小林委員長〕：それでは、次第に沿って、議事を進めます。議事 令和3年度の運営評価について、事務局から評価の進め方、報告書の体裁等の説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：資料2「委員による二次評価まとめ」ですが、皆様からお送りいただきました二次評価の結果を事務局でまとめたものでございます。この資料をもとに、後ほど、ご議論いただきたいと思います。ご承知のとおり、①から⑧までの目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

事務局による一次評価の方針をあらためてご説明させていただきます。「令和3年度 横

須賀美術館運営評価報告書（一次評価）」の表紙裏をご覧ください。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の中止を余儀なくされました。したがって、一次評価にあたっては、ここに記載のとおり「年間を通じた数量で評価するもの」は『F判定』としました。具体的に該当したものは記載の5つの目標となっています。また、目標のうち「アンケート結果で判断するもの」は『取得できたアンケート結果をもとに判定』という方針のもと、一次評価を実施しました。具体的には記載の2つの目標が該当しています。その他の目標については、例年通りの方針で一次評価を実施しました。以上が事務局による一次評価の方針です。

次に、二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。事務局からは、最初に①の目標について、一次評価及び委員の皆様から頂戴した二次評価の説明を簡潔に行います。委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきます。以降、順次、目標ごとにそれを繰り返し、進めていきたいと考えます。また、評価報告書の体裁ですが、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載したいと考えます。よろしければ、今までのとおり、コメントの後ろにかっこ書きで記名させていただきますと考えております。以上でございます。

[小林委員長]：それでは、進め方、評価報告書の体裁についてですが、いかがでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：それでは、目標①から、事務局は説明をお願いします。

[事務局・小川]：資料1「運営評価報告書（二次評価のまとめ）」及び「評価報告書（一次評価）」に基づき、目標ごとにご説明申し上げます。

2ページをお開きください。「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の事業計画及び目標についてご説明させていただきます。

まず、達成目標についてです。繁忙期である8月から9月に臨時休館となり、年間を通じた評価が困難なことから「F」評価とさせていただきました。令和3年度は目標となる11万人にはおよびませんでした。91,809人のお客様にご来館いただきました。

次に、実施目標についてです。昨年度に比べ観覧数が増加したこと、コロナ禍の中でHPリニューアルを行い、積極的な情報発信を行ったこと、ツイッター、FB、インスタグラムといったSNSでも積極的な情報発信を行い、フォロワー数が伸びたことから「A」評価としました。少しずつコロナ禍から人流の回復があることは皆様もお感じかと思いますが、まだ不安定なところではございます。そのような中でも雑誌等メディアへの掲載が伸び、イベントではライブ配信を行ったこと、外部団体との連携に力を入れたこと、商業撮影（フィルムコミッション）の件数が増えたことなど、できることに取り組んでまいりました。これからも一層、多くのお客様をお迎えできるよう、また横須賀美術館をより多くの方に知ってもらえるよう、取り組んでまいります。

[小林委員長]：質問がなければ、後ほどまとめてご意見をいただくこととして、続けて事務局から説明いただいてもよろしいでしょうか。

[事務局・下田]：進めやすい方法をとっていただいております。

[事務局・日野原]：では、「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」の一次評価についてご説明します。8ページをご覧ください。この項目の達成目標は、市民ボランティア協働事業に対する登録者・一般参加者を総合した参加者数 延べ2,400人ですが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりボランティア活動を中止したため、評価不能ということで、一次評価を「F」としました。

実施目標は、「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。」「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。」の2点です。こちらも活動自体が行われなかったため、一次評価を「F」としました。市民ボランティアの活動は、当館の事業の中でも、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けています。ボランティアさんに高齢の方が多く、対面での活動再開に不安があったこと、ご高齢のためZoomなどオンラインでの活動が難しいということが挙げられます。そのような状況の中で、ギャラリートークボランティアが第4期所蔵品展・朝井勘右衛門室の展示計画（主に作品の選定）・解説パネルの制作に参加、また、小学校美術鑑賞会ボランティアを対象に企画展のレクチャーを行う、さらに令和4年度のイベント実施に向けてプロジェクトボランティアの会議を3回行うなど、活動再開に向けた試みも行いました。プロジェクトボランティアについては、令和3年度の会議を含み、今年4月30日にプライベートガリバーキャンパスを行いました。大きな活動は行っていませんが、少しずつ再開している状況です。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・工藤]：「Ⅱ 美術に対する理解を深める」の「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」について、ご説明いたします。11ページをお開きください。まず、達成目標については、一次評価の理由でお示ししているとおり、来館者アンケートの結果、目標80%以上を超える、企画展の満足度92.7%の結果を得ました。以上から、一次評価を「A」としています。

実施目標については、各企画展・所蔵品展をもとに具体的に記載しております。企画展だけではなく、所蔵品展につきまして、第3期は別館・谷内六郎館が修繕工事のため、本館で「生誕100年 谷内六郎展 いつまで見ててもつきない夢」を開催しました。これまでにない規模の紹介に大きな反響がありました。令和3年度は展覧会が一時休館となりましたが、展覧会および教育普及事業は、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、動画制作・配信を組み合わせた紹介方法を引き続き模索しています。感染防止に努めながら、図書室の運営も行ってまいりました。16ページの下段より、教育普及事業についてもまとめて記

載しています。年度後半に対面型の事業を再開しましたが、対面事業を控えている時期も、動画制作・Web・オンライン開催を試み、一定の効果を上げることができました。以上が一次評価の内容です。

資料2「委員による二次評価まとめ」の3ページをご覧ください。菊池委員からご指摘いただきましたミロコマチコ展の総合評価について、資料を訂正させていただきます。参考資料集11ページをご覧ください。「③-a. -2 各企画展の満足度（要素別）」ミロコマチコ展については、総合92.9%、作品92.5%、観覧料85.8%、配置・順路・見やすさ92.4%、解説83.0%、心的充足91.8%が正しい数値となります。所蔵品展も含めた数値を誤って記載しておりました。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・富田]：17 ページ「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」の一次評価について申し上げます。まず、達成目標は「中学生以下の年間観覧者数22,000人」ですが、令和2年度の中学生以下の年間観覧者数は14,325人でした。観覧者数減の理由としては、夏季休暇中と重なる7、8月が、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第5波と重なり、企画展の会期も短縮されたことの影響が大きかったと考えています。このため、感染症の影響による評価不能ということで、一次評価を「F」としました。

実施目標ですが、18 ページにあるとおり、「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する」から、「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する」までの6項目です。令和3年度は、造形展と小学生美術鑑賞会を安全に実施するための工夫を取り入れました。また、内容面でも、目標を達成するため、19 ページにあるとおり、実施可能な時期や事業形態を検討し多様な事業を行いました。特に、学校連携におけるZoomの活用や、オンライン鑑賞会などは、小規模ではありましたが、今後に向けて意味ある試みであったと捉えています。このため、一次評価を「A」としました。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・日野原]：20 ページをご覧ください。「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する」の達成目標については、環境調査を年2回、美術品評価委員会を年1回開催しましたので、評価を「A」としました。

実施目標について、収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う、以下4項目についても、一次評価を「A」としました。理由としては、ふるさと納税により美術品等取得基金に寄せられた寄附によって15年ぶりに作品購入が実現したこと、また、作品の保管・展示環境の維持、所蔵作品の修復・額装についても大きな問題なく計画的に進められているためです。また、令和3年度に購入し、収蔵した矢崎千代二「秋の園」は、令和4年度第1期所蔵品展「新収蔵記念：生誕150周年 矢崎千代二展」として、展示室

5で展示しました。今後も作品購入を継続していく予定です。作品の貸し出し件数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3件に留まっていますが、参考資料集66ページにあるとおり、「あやしい絵展」「貝殻旅行－三岸好太郎・節子展」「奥谷博展」など企画性の高い展覧会への貸し出しを行っています。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田]：22ページをご覧ください。「Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する」の「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてです。まず、達成目標については、一次評価の理由の表でお示ししているとおり、来館者アンケートの結果「館内アメニティ満足度95.8%」、「スタッフ対応の満足度93.2%」とどちらも目標を超える高い満足度をいただいたため、一次評価を「A」としています。

実施目標を「A」とした理由は、各項目で具体的に記載させていただいております。各事業者とも日々緊密なやり取りをしながら、来館者が気持ちよく過ごしていただけるような運営を心がけています。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・富田]：25ページ「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、ご説明申し上げます。達成目標は「福祉関連事業への参加者数延べ240人以上」ですが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面のワークショップなどの事業を中止し、評価不能であるため一次評価を「F」といたしました。

実施目標は、「年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりのための各種事業を行う）」「必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する」「展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する」の3つです。令和3年度は、感染予防の難しさなどを考慮し、障害当事者の方を対象とした対面型のワークショップや託児事業は中止しました。一方で、参考資料集68～72ページにあるとおり、対面の代替えとなる事業ができないかさまざまな工夫を重ねました。例えば、障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」は、昨年度に引き続き、自宅でできる創作活動をテーマに、6本の動画を公開しました。再生回数は各回とも100回から200回で、一定の支持を得られています。また、新しい取り組みとして、従来の福祉講演会事業を、より主体的な方向性をもつ教材制作事業へと転換しました。令和3年度は、点字、触図、読み上げのUni-Voiceを用いた2種のパンフレットを作成しました。今後は、点字図書館などの施設・団体等に配布し活用を進めます。さらに、一般社団法人アーツアライブと本市健康長寿課の協力を得て、認知症当事者と介護者という、これまで取り組んだことのなかった対象へ向けた美術鑑賞プログラムも令和3年度の新しい取り組みです。事後アンケートからは、満足度の高さだけでなく、効

果や課題を把握することもでき、今後につながる知見を得ることができました。ただし、定着が今後の課題であること、託児等行うことができなかった事業も含まれていることから、一次評価を「B」としました。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。ないようでしたら、引き続き事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田]：28 ページをご覧ください。「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。達成目標については、電気、水道、事務用紙の使用量が令和2年度より大幅増加しています。新型コロナウイルス感染症への対策に伴う臨時休館の日数が減ったことが理由です。具体的には、臨時休館の日数は、令和2年度は135日間であったのに対し、令和3年度は38日間に留まりました。そのため、各項目の使用量が増加しています。過去2年間の平均値が異常値となっていることから、達成目標は「F」としました。

実施目標については、記載の理由から、一次評価を「A」としています。次年度の課題にあるとおり、今後も職員全員が費用対効果を常に意識しながら各事業に取り組んでまいりたいと考えています。

[小林委員長]：何かご質問はございませんか。では、①から⑧までの目標について、事務局から説明いただきましたので、これに基づき委員の皆さまが評価した二次評価を見ていきます。

まず、①について、達成目標は一次評価と同様に、全委員が「F」としていますが、いかがでしょうか。

[柏木委員]：事務局の説明にもあったとおり、達成目標は数値目標でありますので、コロナ禍の影響があり判断ができないということで「F」評価としましたが、そのような状況の中でも、9万人以上の観覧者があり、17万人以上が訪れたということは、館の発信という意味ではかなり努力されたのであろうと思います。数字には出ていませんが、評価をしています。

[菊池委員]：定量評価なので、やむを得ず「F」としましたが、次の実施目標で評価しています。

[小林委員長]：全委員が「F」としており、ご指摘も考慮して、①の達成目標は「F」という評価でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標について、「S」を付けている菊池委員、いかがでしょうか。

[菊池委員]：先ほども触れましたが、このような状況の中で9万人の観覧者を集客できるということは、相当な努力をされたのだらうと思います。主催者側の意思ではなく、すべてコロナの影響により休館せざるを得なかったこと、中止せざるを得なかったことは、プロモーションもなかなか難しかったと思います。これだけの成果を出したということは、これまで以上に SNS など訴求効果の高いものを駆使して、来場者のモチベーションを刺激したことは、質としては非常に高いのではないかと思い、「S」としました。

[安藤委員]：菊池委員もおっしゃったとおり、特殊事情により数値目標は達成していないながらも、一方で定性的な評価は、新たな媒体やコンテンツを使った積極的な情報発信を行った結果が9万人という数字につながったのではないかということで、「A」としました。

[川口委員]：初めて市民委員になったため、達成目標と実施目標が「F」と「A」で異なることに疑問を持ちました。同じでないとおかしいのではないかと思い、事務局に電話で確認しましたところ、達成目標というのは数値的なものだということ、実施目標はそれを達成するためにどのような努力をしているかということで、納得しまして、実施目標は「A」としました。

[鈴木委員]：皆さんがおっしゃるとおり「A」でよろしいと思います。

[小林委員長]：菊池委員から「S」をいただき、とても良いご意見をいただいておりますが、全体的な方向としては「A」となっています。委員会としての二次評価は「A」ということでよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」については、達成目標は「F」、実施目標は「A」といたします。

続いて、②の達成目標については、一次評価を尊重する、というご意見が多いので、二次評価についても「F」ということでよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標について、菊池委員が空欄になっていますので、ご説明いただけますか。

[菊池委員]：ボランティア活動に関連した事業ができなかったので、「F」でよいのですが、コロナの関係で今後のボランティア運営が変わってくるのではないのでしょうか。「F」だと

評価不能になってしまうので、将来的な対策や今後のボランティア活動の中身の議論がされているのであれば、その部分を評価に加味したいと思いました。書面からは読み取れなかったため、実際の状況をお聞きして、せつかくなら何らかの形で記述しておけると良いと思います。

[柏木委員]：オンラインによる情報交換や勉強会などの取り組みは他館でも実施しているので可能なのではないかと記載しましたが、ボランティアにご参加の方々の実態を把握していなかったため、ご説明の中で、ご高齢の方も多くなかなか難しいということは理解しました。しかし、意外と回を重ねると Zoom などでもできるようになる場合もあるので、実際にこの場に来ることが難しいのであれば、オンラインなどの手法を取らざるを得ないと思いますので、こういった手法の検討は引き続き必要になるのではないかと思います。

[小林委員長]：川口委員、鈴木委員はこの度初めて評価に参加されるということで、遠慮されていることもあるかもしれないので、この段階でご意見があれば賜りたいと思います。

[鈴木委員]：ここでボランティアをさせていただいていますが、ご説明があったように、朝井勘右衛門の作品を紹介するパネルの作成に、私も参加させていただきました。自分が書いた紹介文が美術館に展示されるという素敵な機会をいただいて私自身も嬉しく、他にもたくさんの方がボランティアとして参加されていて、1人ひとりの顔が思い浮かぶような個性の詰まった紹介文ができ、とても勉強になりました。思いがけず、お知らせもしていなかった友人からも「横須賀美術館のボランティアさんたち頑張っているね」と感想をもらい、評価は「F」ですが、今後期待できるし、期待したいと思います。

[川口委員]：私もボランティアさんが書かれた紹介文を見て、新鮮な気持ちになりました。美術館の専門家が書かれたものとはまた違った見方があり、新しい発見がありました。怪我の功名ではないですが、コロナ禍でご苦労されていた中で、良い企画をなさったな、と思いました。

[小林委員長]：菊池委員のコメントも大変重要ではありますが、委員会としての評価をしなければならぬところです。全体をみて、評価は「F」としますが、美術館としては数字では表せない部分について、今後の参考にしていただければと思います。評価については、「F」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」については、達成目標は「F」、実施目標は「F」といたします。

続いて、③の達成目標について、検討していきたいと思います。

[菊池委員]：以前にも指摘させていただきましたが、児童生徒造形作品展について、大変大事な作品展だとは思いますが、他の学芸員による純粋な企画展と同じ位置づけでこの評価の中に組み入れられていることはどうなのだろうと思っています。ここから外す、ということではなく、本来の企画展の満足度とは別に、括弧書きで児童生徒造形作品展の満足度を表記したほうがよいのではないのでしょうか。今回も児童生徒造形作品展の満足度が98%と高くなっています。ご家族の方も多く来館されるので観覧者数も多くなっていますが、アンケート回収率が非常に低くなっています。アンケート回収率については全体的に低いので、恒常的な課題にはなっていますが、他の企画展に比べて来館者数に対してアンケート数が少なく、上振れしたり下振れしたりということが出てくると思われます。評価については「A」でよろしいと思います。

[柏木委員]：以前にも議論があったかもしれませんが、定数目標のどこをクリアすると「S」という評価をつけられるのか、難しいところだと思いますが、80%以上という目標で、いくつか課題のある項目はあったとしても、それより12ポイントも大きく満足度を得ていることは、定数指標に対する評価としては、目標を遥かに上回る数字を獲得できたのではないのでしょうか。ただ、菊池委員からもお話しがあったように、これも以前からの議論ではありますが、アンケートの母数の問題はあり、統計学的にどう評価できるのか、ということとは、確認する必要があるのではないかと思います。

[安藤委員]：統計的な部分について認識していなかったもので、単純に定数評価として付けさせていただきましたが、お話を伺っていて、アンケートの回収率の増加については、今後継続していただく必要があるように思いました。

[川口委員]：私自身も何度か出口に置いてあるアンケートを記入していますが、とてもよかったと思うときには書こうかな、と思いますが、あまりよくなかったなというときには書かずに帰ってしまいます。置いてあるアンケートを手にとって書く方は、よかったから書く、という方が多いのではないのでしょうか。個人的な感想ですが、例えばホテルに宿泊した際に、サービスがとてもよかったからお礼の意味を込めて書いていこうかな、と思うことがあります。悪いことを書くのも嫌な気分になるので、アンケートの取り方に疑問があったので、このようなコメントを書きました。一般市民の気持ちを汲み取りたいのであれば、年齢、性別をばらつかせた総合的な意見を聞くことができる、モニター制度を採用してはどうかと思いました。

[事務局・日野原]：アンケートについて補足させていただきます。枚数については、単に回答数と上げさせていただいておりますが、会期と観覧者数にばらつきがあります。児童生徒造形作品展は、確かにアンケートの回収率が低くなっていますが、会期は2週間程度となっています。一方で、回収数の多い企画展は会期が2月ほどあるものもあります。そういった数のばらつきの補正するために、一次評価の11ページ中段に記載しています方法で、観覧者数に比例して満足度を算出しておしています。この方法でご指摘のあった部分

すべてをカバーできているわけではありませんが、このような配慮をして数値を出しています。また、回収数については、昨年度、濱田委員よりご指摘をいただき、ビジュツカンノススメ展、遊べる浮世絵展、ミロコマチコ展で、受付でのアンケートの手渡し配布を行いました。児童生徒造形作品展、土日については、受付の負担が大きいことから手渡し配布は行いませんでしたが、好意的な意見だけでなく幅広いご意見をいただくため、受付でのアンケート用紙配架も行いましたので申し添えます。

[小林委員長]：アンケートを記入いただく場所も、書きにくい場所であったりもしますので、中身の検討もあるかと思いますが、設置の場所も検討課題ということで考えていただくということでいかがでしょうか。様々ご意見をいただきましたが、ここでの達成評価については、「A」ということでいかがでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標については、コロナの状況の中で頑張っているというご意見もありますが、全員「A」ですので、二次評価については「A」ということでよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」については、達成目標、実施目標ともに「A」といたします。

続いて、④の達成目標について、柏木委員からご説明をお願いします。

[柏木委員]：再々申し上げているとおり数値に対する評価となるため、「F」としましたが、コロナ禍の状況にあっても14,000人以上の児童生徒の利用があったことは、平常時の実績と比較しても評価できる数字であると付記しておきたいと思います。

[安藤委員]：達成目標については、定量的な評価ですので「F」評価としました。

[小林委員長]：ここではいただいたご意見も踏まえて、達成目標は「F」でよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標について、いかがでしょうか。

[菊池委員]：記載のとおり、オンラインを活用して学校教育に協力できていることは、努力だと思うので「A」としました。

[安藤委員]：コロナ禍において事業の実施に配慮されており、一定の成果がみられているのではないかと思います。

[川口委員]：子どもたちに向けてのオンライン事業は、多くの子どもたちがタブレットを持っている時代なので、考えられて実施されていると思いました。

[小林委員長]：二次評価は「A」ということですが、委員のコメントにあるように、大変努力されていると受け止めていただいてよろしいかと思います。

「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」については、達成目標は「F」、実施目標は「A」といたします。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次の、⑤の達成目標について、いかがでしょうか。

[柏木委員]：開館以来、15年ぶりに作品の購入が実現したということは、市役所の方をはじめ関係者の方々のご尽力だと思いますが、公立の美術館としては、購入することでコレクションを充実させるということは、ある意味コレクション形成の上での常態であり、それに復したということであって、今年度、来年度も継続的に購入案件があるということなので、期待したいと思います。

[安藤委員]：これまでなかなか実施できなかったことが、今年度実施できたということで、ご尽力で数値目標を達成したため「A」評価としました。

[小林委員長]：美術館の所蔵作品というのは、活動するにあたり、それがあつて他美術館からも作品を用意していただきやすくなるので、大変重要な問題だと思います。現在、運慶が非常に人気になってきているようですが、ちょうど鎌倉殿の13人のテーマと結びつてのことだとも思います。やはり作品の選択なども含めて、いろいろお考えになっていただきたいと思います。そういう意味では、大変だとは思いますが、継続的な購入についても考えていただくことが重要だろうと思います。全体からみて、達成目標は「A」ということでよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：達成目標については、全員「A」としていただきますので、「A」評価としてよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」については、達成目標、実施目標ともに「A」といたします。

[柏木委員]：先ほどの「③ 展覧会の満足度」と同様に、数値目標を大きく上回るなので、評価を「S」としました。特に、スタッフ対応の満足度が目標値を遥かに上回っており、館の最前線で仕事をしている方が館のイメージアップに大いに資していることを評価されているのだと思いますので、そういった意味でも高く評価してよいのではないかと思います。

[小林委員長]：先ほどもお話がありましたが、アンケートについて、疑問があるということですが、いかがでしょうか。

[川口委員]：アンケートを受付で配布されているということなので、そのような工夫をこれからも続けていただきたいと思います。評価については「A」でよろしいかと思います。

[小林委員長]：柏木委員が「S」を付けられており、川口委員のご意見も踏まえた上で、全体的にみて「A」としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標については、いかがでしょうか。

[菊池委員]：アンケート結果にばらつきがあると信用できない部分もありますが、この美術館は高い満足度を継続しており、これはなかなかできることではないので「A」としました。

[安藤委員]：適切なメンテナンスだけでなく、関係されている運営事業者とも緊密に連携がとれているとありましたので、きちんとした運営がなされているのではないかと思います、「A」評価としました。

[小林委員長]：ホテルの社長さんの視点も入っているのでしょうか。

[安藤委員]：そういうわけではありませんが、当然、ホテルでも当社の社員だけではなく、業者やテナントが入られている中で調整していかなければなりません。自分たちだけで運営しているのであれば好きなようにできるかもしれませんが、そうではない中で密に連携をとりながら美術館の運営をされているのだと思います。

[小林委員長]：全委員が「A」評価としていますので、実施目標については「A」としてよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」については、達成目標、実施目標ともに「A」といたします。

続いて、⑦の達成目標については、一次評価の留意点が妥当だということで、特別なコメントがありませんので、評価「F」としてよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標について、いかがでしょうか。

[柏木委員]：オンサイトでのワークショップを中止せざるを得ない事業は当然理解できます。数値設定のためこういったことになるが、できなかったことに対する代替の取り組みに、かなり果敢に取り組まれているという印象を持ちました。中止された事業に余りある果敢な取り組みを評価して、「A」としました。

[川口委員]：新しい取り組みをなさったということの評価したいと思います。認知症の方を対象としたアーツライブの取り組みをよくなさったと思いました。準備もかなり大変だったと思いますので、「A」としました。

[小林委員長]：「B」としている菊池委員、いかがでしょうか。

[菊池委員]：私自身もここは「A」でよいのではないかと思いましたが、新しい取り組みを行っている当事者がどうして「B」にしたのでしょうか。客観的な評価と当事者の評価に差があり、そのギャップがわからなかったもので、そういった意味では一次評価を尊重して「B」にしました。例えば、点字のパンフレットを作成したが、まだ作っただけで活かすのはこれから、ということなので「B」という判断なのではないでしょうか。

[事務局・富田]：自己評価をより高い評価をいただき大変有難く思っています。生真面目に考えすぎた部分もあったかもしれませんが、実施目標に掲げた目標が、託児であったり、対話鑑賞の人的サポートを実践する、ということだったので、3項目のうち2項目について実際に行うことができませんでした。これは、行わなかったということではなく、感染症の影響により行うことができなかったものです。その分、実施目標の1番目に掲げている、美術に親しんでもらうための各種事業については、積極的な試みを行ったと自己評価しています。やはり、3項目のうち2項目が行えなかったということで、「A」と自己評価を付けるには不十分であったと考え、「B」としました。1番目の項目がその部分をカバーするとおっしゃっていただけていることは大変有難く、委員の皆様のご判断に委ねさせていただきたいと思えます。

[菊池委員]：そういうことであれば、「A」でよろしいかと思います。平時の目標設定であり、

有事のときには、できないことがある中で、できることを手厚く行うことは非常に前向きな姿勢であり、メリハリがあると思います。遠慮されたのだと思いますので、その部分をカバーするのが委員の役割であるので、私も「B」を「A」にしたいと思います。

[安藤委員]：できないものがある中で、オンラインのコンテンツを工夫されるなど、そういったものをカバーされたということで、よろしいかと思います。

[小林委員長]：評価については、いかがでしょうか。

[安藤委員]：「A」に修正したいと思います。

[鈴木委員]：皆様のご意見を聞き、私も「A」に変更したいと思います。

[小林委員長]：三浦委員が欠席ではありますが、一次評価は「B」ではありますが、委員会としてはよくやっていたので「A」としたい、ということによろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」については、達成目標は「F」、実施目標は「A」といたします。

次に、⑧の達成目標については、一次評価の留意点が妥当だということで、特別なコメントがありませんので、評価「F」としてよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：実施目標については、皆様の評価を踏まえ、「A」としてよろしいでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」については、達成目標は「F」、実施目標は「A」といたします。

最後になりますが、「令和3年度 横須賀美術館運営評価の方法について」とあります。何についての賛否なのかわかりにくい部分もあり、これまでの評価方法の在り方も含めて yes なのか no なのか、ということを書かせていただきました。また、横須賀市として美術館を設置してから、自前の館長は島田先生以降、教育委員会の総務部長が館長を兼務してこられました。これまでは、いわゆる教育の視点や、横須賀市の学校教育の視点という意味での、スモールナショナルギャラビリーのような生徒が集う視点の色彩が強かったのではないかと思います。今年度、館長が文化スポーツ観光部の部長に変わられた、ということで、横須賀市は基本的な美術館の在り方を変えようとしているのでしょうか。もし変えるとすれば、これまでの教育の一環とい

う部分に比重を置いたものから、もっと商業ビジネス的にこの美術館を位置づけようという方向での位置づけを考えているのでしょうか。それによって、アンケートの項目や、視点、項目もおのずと変わってくるのではないかと感じました。どのような意図でこの欄を考えられたのか、ちょうど新しい館長もお見えになっているので、館長から美術館の在り方、抱負をお聞かせいただくと議論が少しできるのではないかと思います。

[倉林館長]：今年の4月1日から、美術館が教育委員会からいわゆる市長部局に移管されました。法の趣旨も鑑み、これまでどおり社会教育施設としての機能を維持、むしろそれを拡大しつつ、そこにさらに美術館の活用、展開といった意味で、私たちは文化スポーツ観光部ですが、それに留まらず横須賀市の街づくり全体に美術館をうまく活用させていただこうという思いで、今回の移管がありました。これまでの美術館としての在り方を尊重しつつ、さらなる多くの方に来ていただくことや、いろいろな企画を行うことで、これまで以上に美術館の魅力を高めて、横須賀美術館を多くの方に知っていただきたいと思っています。今年も昨年の段階で策定した予算で実施させていただいていますが、来年度の予算は、美術館が市長部局に移管されて初めての予算となりますので、予算計上にあっても我々はそういった部分を意識しながら取り組みを作っていくと思っています。評価項目についても、これはこれで必要なものだと認識しています。必要に応じてプラスアルファということも可能性としてあるかと思っています。この委員会にてご意見をいただきながら進めていければと考えています。

[柏木委員]：美術館・博物館が観光拠点になっていくという方向性があり、国の動向としても明確にでていくところでもあります。国の方向性と自治体の方向性が一致していくような施策をとられていく中で、地域でのプレゼンスを高めていくことも必要ですが、もともと美術館・博物館が核心として持っているミッションである、この評価項目にある8つのミッションがぶれないようにすることが必要であって、文化スポーツ観光部になることによってそこが大きく変わるならば、かなり議論が必要であろうと思います。今年度の評価方法については、変わらないところでありましたので、私としては〇としましたが、来年度の予算措置がどうなるかというところ、ミッションの部分がもし変わっていくとすれば、館内での議論はもちろん、こういった外部評価をする委員会でも議論が必要になると思います。

[鈴木委員]：美術館のミッションを外部評価する委員会に初めて参加させていただいたので、達成目標と実施目標に分けている、ということも初めて知り、なるほどなと思ったところです。今回いただいた参考資料集を読ませていただき、非常に細かく丁寧にとっていて、とても感銘を受けました。ぜひこれからもミッションを大事にしつつ、丁寧な評価をお願いしたいと思います。

[川口委員]：美術館を多くの人に知ってもらおうという視点では、よかったのではないかと思います。来た方に対してのフォローをしっかりとすることで本来の美術館・博物館のミッションを進めていけばよいのではないかと思います。プラスの方向にいくことを期待しています。

[小林委員長]：川口委員から公募の市民委員についてご意見をいただいておりますが、いかがでしょうか。

[川口委員]：市民委員がたまたま2人とも同じような年齢、性別なので、男性や若い方を入れてはどうかと思いました。

[事務局・下田]：昨年度実施しました選考では、①市内在住・在勤・在学②平日の会議に出席できる③20歳以上の3つの条件だけを設定し、広く募集をさせていただきました。そのうえで、応募していただいた6名の方に小論文の提出と面接をお願いし、それぞれについて、選考者3名が点数をつけ、合計点数上位お二人を選考させていただきました。現状では、市民委員について、性別や年齢を限定した募集、選考は難しいと考えています。

[川口委員]：ちなみに応募者に男性はいらしたのですか。

[事務局・下田]：半数ほどは男性からの応募でした。

[川口委員]：公平に選考していただいたということだが、せつかくの公募市民なので、ばらつきがあったほうが様々な意見が出るのではないかと思います。

[小林委員長]：たまたま同じ世代の方が選ばれただけのことで、女性何名、男性何名と最初から分けるのもいかがなものかと思っておりますので、難しいところです。

[事務局・下田]：横須賀市全体としては、こうした審議会委員は女性比率を40%以上とすること、としています。

[小林委員長]：川口委員のご意見は、年齢層がバラエティに富んでいれば、いろいろな角度から委員会も活性化するのではないかと非常に良いご発言であり、また役所側からすれば、初めから色分けするのは難しいという問題がある。菊池委員いかがでしょうか。

[菊池委員]：昨年度と同じ設問になっているが、意図としては「コロナ禍のいわゆる非常時において、これまでと同じような評価方法でよいか」という設問だったと思います。ただ、委員長が非常に重要な指摘を委員長がされており、重いテーマになっていますが、振り返ってみると令和4年度の事業計画を議論した際に、市長部局に移管された後どうなるのか、委員会としても危機感を持ちながら待っていたところでありました。部局のほうでも相当配慮して、できるだけ現状の社会教育施設として、博物館としての基本的な部分を大事にししながら、その部分は崩さずに、新しい広報の仕方や表現の仕方、あるいは今回の運慶展のようなものを加えてやっていたので、報告書が出てきたときに安心しました。今後どう変遷していくかわかりませんが、そういう部分が見えたので、市としても、この委員会での危機感や、本質をお互いに共有できていると思うので、現状ではこの評価方法を変える必要はないのではないかと思います。

[安藤委員]：当初は、有事の際の設問だったということまで読み取れなかったが、まさにそのことについて記載してしまいました。有事においては、当然数値目標が達成できないので、定量的な評価は評価不能と書かざるを得ない。それで、定性的な評価はどうしようかなど、記入していくと、どうしてもどの項目も同じような回答になってしまいました。基本的にはこの評価を継続することで良いと思うが、イレギュラーな事象が発生した場合の議論はしてもよいのかもしれないと思いました。

[小林委員長]：基本的には今までの方法で良いと思うが、コロナの態勢から早く回復していただかないといけませんし、何年もこれを引きずっていくと、日本全体、世界全体がおかしくなってしまうような状況ではないかと思います。しかし、それぞれの年度の特別な状況はそれなりに参考にしていけないといけない点もあるので、基本的には8項目を中心として、その年度にコロナなどで思わしくなかった点の特記事項については、少し詳細に記載しておいて、なんらかの形で次の手立てに活用できるように当面まとめていただくことでいかがでしょうか。

[柏木委員]：評価方法の正否について問われていることの回答はそれでよろしいと思いますが、委員長がここで指摘されている事柄はそれとは別に非常に重要なことであって、教育委員会の中に位置づけられた美術館と、市長部局に位置づけられた美術館では、市の施策により幅広く寄り添っていくことが求められるので、美術館が開館以来策定してきたミッションや、事業そのものが妙なポピリズムに陥らないということは、よく点検していく必要があると思います。

[小林委員長]：評価方法の賛否については、委員会としてこのような意見が出たということをもとめておいていただけるとよろしいと思います。

[柏木委員]：戻ってしまいますが、「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」のボランティアの評価について、実施目標「F」はそれでよいが、「F」というのは評価不能の「F」であり、我々は議論しているから理解していますが、第三者から定性的な評価がなぜ「F」なのかと疑問を持たれる可能性があります。先ほど、川口委員と鈴木委員がおっしゃったように、「FはFでもやることはやっている」という部分は記載しておかないと変な評価に捉えられてしまいます。それから、アンケートの調査方法についてご意見があったが、母数については今のやり方をしても限界があり、それほど増えないのではないかと思います。今は、QRコードを読み込んで、後からアプリケーションで答えてもらう方法もあるが、それだけのためにQRコードを読み込む方は多くないので、抽選でなにかインセンティブを持たせる方法などをうまく取り入れられるとよいのではないかと思います。ただ、母数を増やすだけでなく、精度を上げることが目的なので、モニタリング調査は実施したほうがよいかもしれません。そういったことを一つ一つ実施していくと実態に即した評価につながっていくのではないのでしょうか。

[小林委員長]：アンケートの問題、評価点の違いなどありましたが、多くの方が「B」として

いた評価が「A」に訂正された部分もありました。訂正された部分は再度委員に確認して訂正していただけたらと思います。

委員会としては以上となりますので、事務局にお返しします。

【4 その他 今後のスケジュールについて】

[事務局・下田]：それでは、資料3「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。まず、本日第1回会議でご議論いただき、決定した二次評価をもとに、令和2年度評価報告書を作成し、委員の皆様へ郵送により、再度確認のお願いをさせていただきます。そして、委員の皆様からご承認をいただいた上で、評価報告書が確定します。確定した評価報告書は、後日当館のホームページで公開させていただきます。

次に、表の下段をご覧ください。第2回委員会は、現状、書面会議を予定しています。こちらでは、10月11月を目途に令和4年度の事業計画に関する中間報告書を作成し、委員の皆様にご覧いただき、ご意見をいただくようにいたします。

また、来年3月に開催する第3回会議では、令和5年度事業計画の案をお示するという流れで進めてまいります。今後のスケジュールについては、以上となります。

[小林委員長]：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：最後に、事務局から何かありますか。

[岡本課長]：長時間に渡り、ご審議いただき、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を今後の美術館の運営に活かして、ますます励んでまいりたいと思います。これからも横須賀美術館をよろしく願いいたします。

【閉会】